

淡路島 兵庫県



観光立国をめざして

眼下に広がる緑が鮮やかな玉ねぎ畑のパノラマと、陽光をたっぷり浴び育つ新玉ねぎ（下）



兵庫県立「あわじ花さじき」

放流用のマダコ。明石海峡で大きく育て！



音と風と飛沫で体感「鳴門の大渦」。淡路島を背に撮影



文・撮影／高野弘…水中・水辺のフォトジャーナリスト。高知県出身。大阪府豊中市在住。国内外の水中・水辺をテーマに撮影。国内外の新聞、雑誌、広告などに掲載・採用される他、マレーシア、香港、中国など、在日の各国政府観光局からの撮影取材依頼も多数。執筆や公演も手掛け、加えて自らが作詞・作曲した歌に乗せて自然の尊さをギターで弾き語る「高野弘フォトコンサート」も主催するなど多彩。（検索・アクアイメン）



タコとタマネギの魅惑の島

「ウァー、吸いつかれた！ 早く海に放そう！」あちこちで奇声が挙がる。初めての稚ダコの放流体験は、

地元小学校の子供達の里海学習。兵庫県のタコと言えば「明石ダコ」が有名。明石とは明石海峡で陸は離れているが、海はつながっている。流れの速い海峡周辺で育ったこの地のタコも、身が引き締まり味もいい。瀬戸内式気候で少雨のため、2万3000もの農業用ため池がある。そして、これを利用して栽培される玉ネギが淡路のイメージとして定着している。新玉ネギの旬は3月下旬～5月初旬。訪ねると整然と区画された畑全体を埋め尽くしていた。甘味さえ感じる新玉ネギを求めて、わざわざ県外客が足を伸ばすほど。緑豊かな森と青い海を背景に、色鮮やかに咲く花畑、県立「あわじ花さじき」も人気だ。

季節ものと言えば、鳴門海峡の渦潮もそうで、特に大潮の時は迫力満点。インバウンド誘致にもつながる世界自然遺産への登録の願いも強い。海と島の魅力を存分に活かした今後の発展が楽しみだ。